

じょうぎわいせき

城際遺跡

(厚木市No.234遺跡)

調査期間

20040601～20041208
20050601～20061015

所在地

厚木市岡田 1203-6外

時代

弥生時代後期
古墳時代
古代 中・近世



作成日:20071225

概要

城際遺跡は厚木市の南東部の岡田にあります。中日本高速道路株式会社による東名高速道路改築に伴い調査が行われました。小田急小田原線本厚木駅の南南東約1.8kmの相模川中流の右岸に形成された沖積微高地上です。調査を行った場所は、東名高速道路の北側と南側です。調査区は道路部分であるため総延長は260mになります。

近世の遺構は調査区全域の上層で確認された土坑群があります。これらは宝永火山灰をすてた土坑で、その配置に一定の規則性があることから、当時の土地の利用の仕方を知ることができます。

中世の特色は、大溝に区画された集落です。遺構の中心は掘立柱建物の柱穴と溝状遺構です。何度も建て替えられたと考えられる掘立柱建物が発見されています。掘立柱建物は建て替えを除いて6棟以上が発見されています。東名高速道路の南側で発見された南北方向の大溝は前回調査された溝に続くものです。出土した遺物は豊富で銭、かわらけ、漆椀、下駄、曲げ物などがあります。この溝に直行するようにもう2条の溝が発見されました。この溝の南側から建物の柱址のピットが発見されています。これらのピットから柱、礎板が多く出土しました。

その他に調査区西側では稲作が行われていたと考えられる、平安時代の畝状遺構も見つかっています。

古墳時代では溝状遺構が1条発見されています。



▲D2区 48号溝と7号溝(手前)



▲D区7号溝の木製品



▲D区7号溝出土の木筒



▲D2区 48号溝出土常滑大甕